

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	大学連携工業振興事業	会計	一般会計	事業No.	497	施策順No.	11-057
		事業種別	政策・その他	予算科目	7-1-5-10-26		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	工業課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯伊地域の製造業者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		製造業者数(飯伊地域)		617	539	550	550	
	意図	企業に大学を身近に感じてもらい、人材育成の充実と大学と企業が共同研究が活発になり、新しい技術や製品が生まれてもらいたい。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	技術センター及び環境技術開発センターで携わっている研究開発で生まれた新技術や新製品数	1	1	3	3	3		A
	連携大学数	1	2	3	4	7		
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	大学連携により柿むき機など地域ニーズから新製品が生まれた。そこから派生した製品開発もはじまっており、地元産業として定着すれば目標以上の成果になる。工業系以外でも大学との連携が進んでおり、企業懇話会で多くの提言をいただいた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	大学との連携による事業(域内企業の技術力・開発力・人材力の育成)を活発に行うために、定期的な情報交換を行う。あわせて大学や学部、研究室等を誘致するための可能性を探る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 協定した大学との定期的な情報交換 (1) 協定した大学(信州大学工学部、明治大学、長野高专) 2 新規連携大学の開拓と拡大 (1) 連携を深めていきたい大学(東京大学、亜細亜大学、諏訪東京理科大学、静岡大学、愛知淑徳大学、千葉大学、法政大学、立教大学、東京農業大学) 3 連携大学との新規事業等に関する打ち合わせ 4 大学の学部、附属高校、研究施設等の誘致	1 協定した大学との情報交換回数 2 連携を深めたい大学とのコンタクト回数	1 3回 2 14回
23年度実施計画	「飯田産業技術大学事業」と統合		

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)			特定財源内訳、補足事項
		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	
	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	182	65	0	
	計(A)	182	65	0	
	正規職員所要時間		36		
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		129		
	トータルコスト A+B		194		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・施策展開においては、世界同時不況の影響を考慮されたい。(平成20年度 産業経済委員会 決算認定提言書) ・パワーアップ協定の目的や趣旨について、広く周知查されたい。(平成20年度 産業経済委員会 決算認定提言書) ・すべての取り組みにおいて「環境」の視点をもって取り組まされたい。(平成20年度 産業経済委員会 決算認定提言書)

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	既存事業者の出荷額(工業)飯田下伊那(億円)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 企業の研究開発テーマと大学研究のマッチングをし、連携を促進させた。 地域のニーズを地元産業に結びつけるように、企業、大学をコーディネートした。 大学の研究を地元企業に対してより身近なものにした。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 企業ニーズと大学シーズを更にマッチングさせる必要がある。 		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取り等により、企業の研究開発に関する問題点や、地元ニーズの掘り起こしを行った。 大学の研究内容等の情報交換の機会を増やした。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 企業の求めるニーズをまとめることと大学のシーズを良く知る必要がある。 		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 大学への出張は、なるべく行政と企業で同乗して行くようにした。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 企業と行政がコスト削減できることは、共同で実行する。 		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 行政は企業と大学をコーディネートする役割を担っているが、この役割は行政として重要であり、概ね適切であった。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 将来的には企業と大学が直接関わったり、地域のニーズを企業独自でリサーチできるようになればさらに良い。 		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ①企業は、研究開発テーマの投げかけ、大学と連携して研究開発、製造、製品化、販売 ②大学は、企業と連携して研究開発 ③行政はマッチング、コーディネート、企業の困っていることの掘り起こし。大学の研究テーマ、取組みとして取り上げてもらうための働きかけ。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 企業での課題を解決するための方策として大学との連携は必要ではあるが、企業の求めるニーズと大学のシーズがなかなか合わないのが実情であるため、マッチング方法を検討する必要がある。 		
全体を通じて	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 地元で大学が無い地域なので、連携をマッチング、コーディネートする行政の役割が大きかった。 地元企業に開発型の企業が少ないので、大学の研究内容を知ってもらい、ビジネスにつなげたことが企業の力になった。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 企業のニーズと大学のシーズが合致することは簡単ではないため、コーディネータ役としての人脈作りや複数大学等の連携が必要である。 		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------